

感染症発生動向調査

Infectious Diseases Weekly Report

2024年第24週 (6月10～16日)

(国立感染症研究所感染症疫学センター)

●全数報告の感染症 (1～5類感染症)

(今週の報告数／累積。累積は2024年第1週から)

疾患名	報告数	累積
[1類]		
(報告なし)		
[2類]		
結核	248	6878
[3類]		
コレラ		2
細菌性赤痢		21
腸管出血性大腸菌感染症	60	820
腸チフス	1	17
パラチフス		4
[4類]		
E型肝炎	13	252
A型肝炎	2	76
エキノコックス症		5
エムボックス ¹⁾		14
回帰熱	2	5
Q熱		6
コクシジオイデス症		1
重症熱性血小板減少症候群	8	67
チクングニア熱		1
つつが虫病	1	98
デング熱		88
日本紅斑熱	12	142
日本脳炎		1
ブルセラ症		2
マラリア	1	15
ライム病		6
レジオネラ症	70	825
レプトスピラ症		3
[5類]		
アメーバ赤痢	7	236
ウイルス性肝炎 ²⁾	2	94
カルバペネム耐性腸内細菌目細菌感染症 ³⁾	31	871
急性弛緩性麻痺 ⁴⁾	1	16
急性脳炎 ⁵⁾	4	268
クリプトスポリジウム症		12
クロイツフェルト・ヤコブ病	1	73
劇症型溶血性レンサ球菌感染症	31	1060
後天性免疫不全症候群	18	446
ジアルジア症		18
侵襲性インフルエンザ菌感染症	8	317
侵襲性髄膜炎菌感染症	2	25
侵襲性肺炎球菌感染症	46	1368
水痘 (入院例に限る)	6	212
梅毒	190	6183
播種性クリプトコックス症	2	99
破傷風		34
バンコマイシン耐性腸球菌感染症	5	61
百日咳	54	457
風しん		3
麻疹		24
薬剤耐性アシネトバクター感染症		4

1) 2023年5月26日よりサル痘から感染症法上の名称が変更。2) E型肝炎およびA型肝炎を除く。3) 2023年5月26日よりカルバペネム耐性腸内細菌科細菌感染症から感染症法上の名称が変更。4) 急性灰白髄炎を除く。5) ウエストナイル脳炎、西部ウマ脳炎、ダニ媒介脳炎、東部ウマ脳炎、日本脳炎、ペネズエラウマ脳炎およびリフトバレー熱を除く。

●定点把握の5類感染症

(「定点当たり」は報告数／定点医療機関数)

疾患名	報告数	定点当たり
インフルエンザ ⁶⁾	753	0.15
新型コロナウイルス感染症	20561	4.16
RSウイルス感染症	3830	1.22
咽頭結膜熱	2898	0.92
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	14015	4.46
感染性胃腸炎	14754	4.70
水痘	774	0.25
手足口病	14863	4.73
伝染性紅斑	269	0.09
突発性発しん	1003	0.32
ヘルパンギーナ	2487	0.79
流行性耳下腺炎	222	0.07
急性出血性結膜炎	38	0.05
流行性角結膜炎	488	0.70
細菌性髄膜炎 ⁷⁾	7	0.01
無菌性髄膜炎	15	0.03
マイコプラズマ肺炎	153	0.32
クラミジア肺炎 ⁸⁾	1	0.00
感染性胃腸炎 (ロタウイルス) ⁹⁾	24	0.05
インフルエンザ (入院患者)	20	—
新型コロナウイルス感染症 (入院患者)	1372	—

6) 鳥インフルエンザおよび新型インフルエンザ等感染症を除く。7) 髄膜炎菌、肺炎球菌、インフルエンザ菌を原因として同定された場合を除く。8) オウム病を除く。9) 病原体がロタウイルスであるものに限る。

●定点把握の対象となる5類感染症

(前週からの定点当たりの増減と多い地域)

疾患名	増減	地域
インフルエンザ	↓	茨城、沖縄、京都
新型コロナウイルス感染症	↑	沖縄、鹿児島、佐賀
RSウイルス感染症	↓	沖縄、宮崎、山口
咽頭結膜熱	↑	岩手、北海道、富山
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	↓	山形、福岡、北海道
感染性胃腸炎	↓	大分、熊本、兵庫
手足口病	↑	三重、石川、鹿児島
伝染性紅斑	→	青森、岩手、栃木
ヘルパンギーナ	↑	三重、群馬、高知、香川
流行性耳下腺炎	↑	滋賀、埼玉、千葉
マイコプラズマ肺炎	↑	沖縄、香川、福井

◆鳥インフルエンザA (H9N2) : インド

5月22日、インドの国際保健規則 (IHR) 担当部局は、西ベンガル州在住の小児の鳥インフルエンザA (H9N2) ウイルスによるヒト感染の検査確定例をWHOに報告した。インドでWHOに報告されたH9N2ウイルスのヒト感染症例は、2019年に続き2例目。現在、小児は回復し退院している。